

「留学生と日本人学生の合同講習交流会」

2013年7月28日（日）、留学生と日本人学生との相互理解・相互交流を促す目的で、合同講習交流会が高知県立牧野植物園にて開催されました。期末試験が翌日に控えている中、30名近くの留学生及び日本人学生の参加を得ることができました。交流会第一部では、留学生によるプレゼンテーション、日本人学生の留学経験者による留学経験談、そして、留学生チューター講習会を行った後、3グループに分かれて、留学生チューター活動の問題点に対する改善策の提案やチューター活動のよかった点、また、異文化理解について参加者それぞれの考えを話し合い、相互理解を深める活動内容で行いました。

留学生によるプレゼンテーションは高知大学の協定校から来ている4人の留学生がそれぞれの大学紹介や母国の歴史や文化等について紹介されました。また、「チューターは日本に来てはじめてできた日本人の友達」とチューターの存在の大きさを語られました。一方、日本人学生の留学経験者は留学先大学（高知大学の協定校）の紹介や留学から得た経験等について語られました。

グループ活動では、「異文化理解とは」について、「固定観念をなくせる一番の方法」、「視野を広げる」、「お互いの文化を認め合う」、「異文化への受容」などの話が伺え、また、「大学の健康診断にびっくり!」、「いつバイトに入っても“おはようございます”と挨拶する」などの日本事情・日本文化に対する新発見のような話も出ました。

交流会第二部では、「肌で感じる国際協力—JICA 草の根技術協力事業—」の演題で、牧野植物園藤川和美研究員による講演会が行われました。ミャンマーにおける JICA 草の根技術協力事業について、途上国の村における森林保全と生活向上を目的に、薬用ランの保護と増殖、コンニャクイモの栽培等の具体例について紹介され、普段私たちがなかなか聞くことができない貴重な話を伺うことができました。

講演会の後、牧野植物園企画広報課の方に園内を案内され、牧野富太郎の業績や牧野富太郎ゆかりの植物等についての話も伺うことができました。当日はちょうどサボテンの展示販売が行われ、高知では滅多に展示されることがない種類様々なサボテンを目にすることができました。午後4時40分牧野植物園を後にしました。

今回の活動は部門としての初の試みであり、参加者からは今後も是非このようイベントを行ってほしいとのご意見もいただきました。主催者としてはうれしい限りの言葉です。

（文責：林翠芳）

会場設営



留学生によるプレゼンテーション



留学経験者によるプレゼンテーション



グループ活動



グループ発表



講演会



園内散策



サボテン

